

2年学年だより

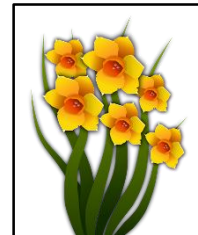
鎌倉市立御成中学校 第2学年

令和3年2月1日（月）発行

No.11

令和3年が明け、早1か月が経ちました。遅くなりましたが本年もどうぞよろしくお願いたします。今年はいよいよ3年生になります。この3学期は、最高学年までの準備期間として、2年のしめくくりができるよう、しっかりとした態度で学校生活を過ごしてほしいと思います。

さて現在、緊急事態宣言発令中のため、世の中では不要不急の外出をせず、感染防止に最大限努める動きとなっています。学校については今まで以上に感染防止策を徹底しながら日々の学びを止めずに進んでいるところです。詳細は先日お配りしましたが、実験や実習、グループ活動等に制約が設けられている中での授業となっています。生徒たちも対策の大切さを十分理解しているものの、この状況を残念に思っている生徒が多く見受けられます。一緒に作業をしたり議論したりすることが大好きな生徒たちなのだ、ということ、私たち教職員は改めて感じています。また、部活動のない日々が続いています。これについては、活動できない苦しさを感じている生徒やこの状況下では仕方ないと思っている生徒等々、色々と複雑な心境であることが見て取れます。春先の休校期間の経験も活かしながら、家でできることに取り組み、活動が再開したときに思い切り取り組めるよう準備をしながら、前向きに過ごしてほしいと思います。引き続き生徒の様子をしっかり見つつ支えていきたいと思ひます。ご不安なことやご相談がありましたら遠慮なく学校までご連絡ください。



今年度、実施することのできなかつた「キャンプ」の代替行事については、昨年秋から学級会で意見集約の上、学年委員会の生徒と教職員で、行事を行う意味から見つめなおして議論を進めてきました。その結果、「仲間との協力を深め、仲間とともに楽しむ」ことを目標に、状況が許せば校外に遠足に出る一日を設け、それとは別に学校で学年行事を密にならないよう行うという、2本柱で企画を進めることに一旦はまとまりました。ともに3月末に行う予定で生徒と保護者の皆様に公表しようとした矢先に緊急事態宣言発令となり、先が見通せない状況となってしまっています。引き続き状況を見つつ実施の判断をして、ご連絡をさせていただきます。

なお、先にお知らせいたしました通り、2月17日（水）に学年懇談会を開催する予定です。今回は、学年の様子、キャンプ代替行事に関して、3年次の修学旅行に関して、来年度からはじまる“新学習指導要領”と学習および評価に関して、という内容でお話をさせていただきます。

シリーズ 道徳の時間から⑤ 「あきらめない気持ちで」

ピアニストの館野泉さんは、コンサートの途中、脳出血で倒れてしまった。治療の末、通常の生活はできるようになったが、右手にまひが残り、両手でピアノが弾けなくなった。館野さんは絶望した。

留学先から帰った息子のヤンネさんは、迷いながらも父のピアノにそと『左手のための3つの即興曲』という楽譜を置いた。それを見た館野さんはハツとする。

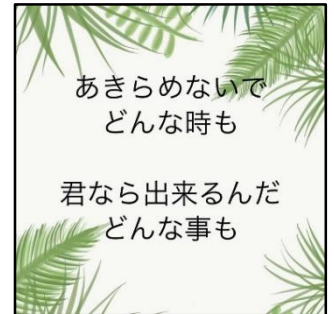
“左手のピアニスト”として再起を果たした館野さん。いま、左手で表現する新たな世界を切り開いている。

（資料：NHK道徳ドキュメント制作班編、「左手でつかんだ音楽」、『新しい道徳2』P.36-39、東京書籍）

「あきらめない」とはどういうこと？

- ・最終的な目標。館野さんの場合、「またステージに乗ること」ですが、それに向かっていくのをあきらめないということ。少し脱線してもよい。両手でなくても左手でステージに乗れるようにがんばる。これこそがあきらめないということだと思います。手段を替えることはあきらめるということではない。
- ・あきらめない気持ちがあれば、目標とか理想の100とまではいかないことはあるかもしれないけれど、その目標や理想に近づくことは絶対できると思った。その目標や理想を実現したいという気持ちが強くあれば、「あきらめない」ではなく「あきらめられない」になると思った。
- ・今回の館野さんのエピソードのように人生を変えたりする「あきらめない」という選択でなくとも、「眠いけど勉強しよう」とか「苦しいけどまだ走ろう」みたいに、意外と日常の中で「あきらめない」という選択をしていて、その決断は周りの人の応援とかその先にある目標、大げさにいうと希望みたいなものがあるからできているのかもなと思った。

- ・私はたまに、どうして今こんなことをしているのだろうと考えることがある。こんなに頑張っても成功するかどうかなんてわからないし、誰かのために頑張っているわけでもない。そういう時ふと、手を抜いて他のことをしっかりやった方がいいのではないかなんて思うときもある。それは、もう耐えきれないとかそんな話ではなく、自分のやっていることは本当に正しいのか迷うときがある。けれどよく考えてみると、それは私が叶えたいからであって、私とその目標を達成したいからであるわけなので、あきらめない理由はそれで充分なのではないかと思う。だから、この話とは少し違うかもしれないけれど、希望の持ち方は人それぞれであるし、ただ、自分がそれを達成したいと思いながら頑張ることが大切なのではないかと思う。
- ・一つの道が閉ざされてしまって、もう道は残っていないと思ってしまい、あきらめてしまうのかもしれない。でも、館野さんのように、自分にとって何が大切なのかをわかっているならば、全く同じでなくても大切なことをあきらめなくてもよい道を見つけられるかもしれないと思った。将来の夢も同じで、自分がどうしてそれになりたいのかを考えれば、もっと他の道も見えてくるのかもしれない。
- ・「あきらめない」ことは、「あきらめる」ことより難しいと思う。なぜなら、「あきらめる」と『あきらめないで続ける苦しみ』を味わわないで済むからである。だが、今回の館野さんの話をきいて、『あきらめないで続ける苦しみ』を味わったあとには、希望の光が見えてくるものだと確信した。今は苦しいことでも、継続して努力することがとても大切なのだなと思った。



シリーズ 総合的な学習の時間から⑥

1月は、今までの取組をまとめ、「働くとは新聞」の作成をしました。夏休みの宿題で取り組んだ身近な人へのインタビュー、ビデオや動画の視聴、地域の事業所からいただいたメッセージ、働くとは何かをテーマに教室の仲間とした対話、など、今まで様々な視点から働くことについて見つめてきました。この学びをつなげ、私はいま、「働くこと」について、どうとらえ、どう考えているのかを個人新聞の形でまとめました。さっと書き上げる生徒やなかなか筆が進まない生徒など、いろんなケースが見られましたが、何のために働くのだろうか、働くためにはどのような気持ちが必要なのだろうか、働いたらどのような結果が待ち構えているのだろうかなど、どの生徒も“働くこと”を自分ごととしてとらえようと頑張っていました。



新聞作成後には、一人1～2分で新聞の内容について紹介する発表会をクラスごとに行い、各クラスから選ばれた生徒による学年発表会をリモートで行いました。コロナ禍で保護者の方をお呼びしての発表会にすることができずとても残念ですが、新聞の最後にかかれた『わたしにとって働くとは』からいくつかをご紹介しますので、お読みいただければと思います。また、ぜひお子さんに「あなたにとって“働く”とは？」と尋ねてみてください。

わたしにとって“働く”とは

- ・自分の周りへの思いやりや感謝の気持ちを持ちながら、好きなことを極め、突き詰める。お金を稼ぎ、生活するための手段。
- ・収入を得ながらも、やりがい求めて、生活を潤わせること。
- ・社会に貢献すること。他人のために最善をつくること。
- ・社会の一員に自分も加わり、社会のため、自分のため、自分の暮らしを豊かにするために、与えられた役割をこなすのが「はたらく」ということ。
- ・誰かのことを思って動き、それを自分の幸せに結び付けること。
- ・自分のため社会のために頑張るだけでなく自分らしさを見つけるために、頑張ることだと思います。
- ・「責任を持って向き合うこと」だと思います。なぜ、どうして働くかは人によって違いますが、「はたらく」人々は人と仕事と向き合い、生活しているから。
- ・生きていくためのお金が手に入り、しっかりとした責任感、やりがいを持てたり、他人のためになったりするもの。自分が好きなこと、興味があるものだともっといい。

本校では学習に必要なものは、土日・登下校時に関わらず、持ってこないよう指導をしています。2月14日(日)はバレンタインデーですが、チョコレート等のお菓子類についても同様です。その他の日も含めて学校に持ってくることは禁止ですので、ご理解とご協力をお願いします。